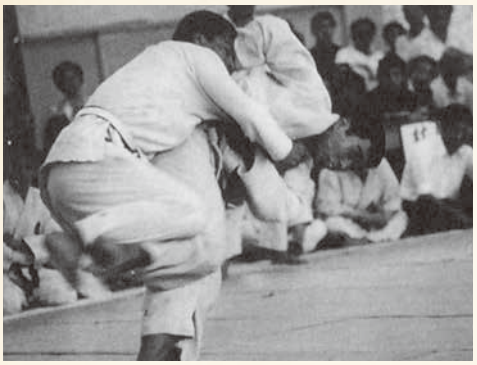
外試合では強豪校の選手に全く歯が立たない日々が続きます。サボること、逃げることだけ考えていたのが本当のところです。

授業が終わると道場に直行して掃除を行います。道場の足元には小窓があるのですが、そこから下校する生徒が見える。服装自由化の時代ですから青春を謳歌（おうか）している生徒たちを見て、うらやましいと感じたことは一回や二回ではありませんでした。

2年生になり、少しは様になってきたわれわれに、県警の機動隊が出稽古に来てくれるようになりました。秋高の坂を機動隊のバスが上ってくるのは、ある意味異様な光景であったと思いますが、稽古をつけてもらうわれわれは「今日あたり来るかな」と戦々恐々の日々を過ごしていました。当時の秋田県警機動隊は全日本選手権に出場する選手も複数いて、その強さたるや全国でも有数であったと思います。練習が始まると私を含め部員たちが、ひらひら舞うがごとく投げられます。今は



昭和49年全県大会優勝（奈良　博）

新しい道場となっていますが、旧道場の天井には私の足跡がついたくらい高く投げられたことを覚えています。

練習は夕方5時半くらいで終わりますが、練習後の解放感は特別なものがあります。時間はありますから、社会勉強（寄り道）をしながら帰ります。最初に寄るのは坂の下のパン屋さん、軽く腹ごしらえをし、インベーダーゲームが社会現象になっていた時期であり、勉学どころか穴倉のような喫茶店に潜り込みます。夜は再び集合して、時折互いの家に泊まり込んでは時間を過ごしておりました。日中はもちろん他の運動部員ともども教室で英気を養います。そのようなわれわれを先生もおおらかに見守ってくれていました。小学校3年の春だったと記憶していますが、偶然全日本柔道選手権のテレビ中継を見ることがありました。柔道は見たこともなかったのですが、場外際での大外刈りが決まった瞬間、すごく美しいと感じました。のちにこの勝者

生徒との練習にも全身全霊を傾ける船木隆良先生

が秋高の大先輩村井正芳さん（昭和36卒）であることを知ります。中・高・大学と柔道部員として過ごし多くの凄い試合を見てきましたが美しいと感じたのはこの試合と全県優勝を決めた大将北林一成君（昭和50卒）の逆転の大外刈りだけです。秋高では「姿勢のよい柔道、正しく組んだ柔道」を指導しますが、偶然にもその真髄をはるか昔から目にしていたことは不思議な縁を感じます。

さて、柔道部の活動に戻りますが下級生に有望な選手も増え、部内に活気も出てきて、新人戦からは連戦連勝、新たに船木賢咲先生も赴任され「密」は「濃密」になり、ついには11年ぶりに全県優勝を果たします。

## 部員全員でインターハイに

インターハイは、福岡であったのですが、学校をはじめOBの皆さんにも協力いただき部員全員で出かけました。「等しく視野を広げさせる」との方針のもと、先生が各方面に頭を下げてくれたのだと思います。初めて飛行機を経験する1年生が、キラキラした顔で乗りこんできたことを今でも思い出されます。彼は教職に進み、生徒から信頼される校長先生となりました。

秋高柔道部には部員への愛情があふれています。勝つことだけを目的とするのではなく、成長を待ってあげる優しさがありました。明治40年の創部以来、その時々の先生、先輩がつくりあげてくれた伝統のありがたさを、社会人になってから気づいた自分に赤面するばかりです。

NIT Consultant
有限会社 NITコンサルタント
https://www.namahage-it.com/
AI とロボティクスで世の中に
必要とされる新ビジネスを創出します
代表取締役 須田　朝広（平成2年卒）
〒550-0005 大阪市西区西本町1-10-3 新松岡ビル7階
TEL：06-6532-3088　FAX：06-6532-3089
【東京支社】東京都品川区南品川 1-3-2　TEL：03-3561-5556

医療法人 柔心会
男鹿整形外科
介護老人保健施設 たらちね
ショートステイ たらちね
理事長 鎌田玄徳（平成2年卒）
〒010-0341 男鹿市船越字一向67-180
TEL 0185-22-6660　FAX 0185-22-6659